

## 東南アジアで越境する感染症：多角的要因解析に基づく地域特異性の解明

西淵 光昭

(京都大学・東南アジア研究所・教授)

### 【研究の概要等】

東南アジアでは、国境を越えて伝播し、相当数の患者が発生している重要な感染症が古くから知られている。このことはそこで実施されている感染症対策が未だに機能していないことを意味しているため、その現状を正確に把握して理由を明らかにする必要がある。このような感染症の発生と伝播には、微生物学的要因（病原体の分布）のみならず多くの地域特異的要因が関係するので、これらの要因およびその相互関係を明らかにすることは感染症対策を講じるために重要である。

本研究では、東南アジアで越境する新型腸管感染症が多発している代表地域あるいは菌の分布地域および関連地域で調査を行い、時間軸を含めた伝播ルートを明らかにする。また、タイ・ミャンマー国境やインドネシア・マレーシア国境でマラリアが、労働者の国境移動などに伴って越境している現状を明らかにする。さらに、これらの地域において、対象とする感染症の発生と伝播に影響を及ぼす重要な要因（自然環境要因、生活環境要因、文化的要因、社会的要因、経済的要因、および政治的要因）および感染症の発生と伝播による生活・社会への影響を明らかにして、東南アジアの地域特異性をまとめる。

### 【当該研究から期待される成果】

感染症の発生・伝播要因については従来病原体の検出や感染のメカニズムを中心に医学的見地から研究され、感染予防については衛生学的見地から研究されてきた。本研究ではそれ以外の様々な地域特異的要因を重視する。このような研究成果は、それぞれの地域にフィットする実用的で効果的な感染防止対策を考案するための礎になると確信している。本研究では感染症の越境を題材として扱っているが、研究の成果は、東南アジア諸国が抱えるリスクマネジメントにおける地域共生、脱国家という大きな問題への取り組み方への一例となるであろう。

### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ Benjamin P. G., eleven others, and M. Nishibuchi. 2005. Factors associated with emergence and spread of cholera epidemics and its control in Sarawak, Malaysia between 1994 and 2003. Southeast Asian Studies. 43 (2): 109-140.

【研究期間】 平成19年度－23年度

【研究経費】 20,000,000 円

(19年度直接経費)

【ホームページアドレス】 な し